

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成27年8月14日
【四半期会計期間】	第68期第3四半期（自平成27年4月1日至平成27年6月30日）
【会社名】	横浜冷凍株式会社
【英訳名】	YOKOHAMA REITO CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 吉川 俊雄
【本店の所在の場所】	横浜市神奈川区守屋町一丁目1番地7 （同所は登記上の本店所在地であり、実際の業務は「最寄りの連絡場所」で行っております。）
【電話番号】	（045）210 - 0011
【事務連絡者氏名】	経理部長 吉田 豊
【最寄りの連絡場所】	横浜市西区みなとみらい四丁目6番2号 みなとみらいグランドセントラルタワー7階
【電話番号】	（045）210 - 0011
【事務連絡者氏名】	経理部長 吉田 豊
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第67期 第3四半期連結 累計期間	第68期 第3四半期連結 累計期間	第67期
会計期間	自平成25年 10月1日 至平成26年 6月30日	自平成26年 10月1日 至平成27年 6月30日	自平成25年 10月1日 至平成26年 9月30日
売上高 (百万円)	103,936	114,552	141,654
経常利益 (百万円)	3,377	3,207	4,102
四半期(当期)純利益 (百万円)	2,033	2,048	1,835
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	2,197	4,118	2,249
純資産額 (百万円)	59,691	62,648	59,635
総資産額 (百万円)	114,186	122,628	114,210
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	39.29	39.59	35.48
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	34.40	34.66	31.06
自己資本比率 (%)	51.50	50.25	51.46
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	3,632	674	280
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	6,632	6,926	12,812
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	8,952	5,979	11,320
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (百万円)	4,921	4,305	4,431

回次	第67期 第3四半期連結 会計期間	第68期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自平成26年 4月1日 至平成26年 6月30日	自平成27年 4月1日 至平成27年 6月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	8.10	17.77

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には消費税等は含まれておりません。

3. 当社は、第68期第2四半期連結会計期間より「役員報酬B I P信託」を導入しており、当該信託が所有する当該株式を自己株式として処理しております。これに伴い、1株当たり四半期純利益金額の算定上、控除した当該自己株式の期中平均株式数は当第3四半期連結累計期間149,240株であります。

## 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

#### (1)業績の概況

当第3四半期連結累計期間(平成26年10月1日～平成27年6月30日)における我が国の経済は、円安基調の定着、原油安等の影響により企業収益はゆるやかに回復し、雇用・所得環境の改善が見え、個人消費に底堅さが出てきました。世界経済につきましては、米国の年内利上げ観測が強まる中、中国経済は減速傾向で推移し、欧州ではギリシャ債務問題が大詰めの局面を迎えるなど、なおも不透明な要因が存在しています。

当社グループが係る食品関連業界では、消費にようやく回復の兆しが見え始めるものの、円安や原材料高騰などの影響は引き続き残り、総じて厳しい事業環境で推移しています。

このような状況のもと当社グループは、平成26年10月にスタートさせました第五次中期経営計画「Flap The Wings 2017」(3ヵ年)に基づき、冷蔵倉庫事業では「“COOL”ネットワークのリーディングカンパニー」を目指し、食品販売事業では「安定的な利益追求を基本としながらも、強みのある商材を全社的に展開する」ことを命題として、事業運営方針の各施策に注力しております。

冷蔵倉庫事業は、前期から当期に掛けて新設した4つの物流センターが順調に稼働し、減価償却費の大幅増加や設備立ち上げ時の臨時経費等を吸収して、計画通りに進捗しております。食品販売事業は、当期初の急激な円安で利益率が悪化した輸入商材の在庫処分は収束し、業績回復の途上にあります。

その結果、当社グループの当第3四半期連結累計期間の連結経営成績は、売上高114,552百万円(前期比10.2%増)、営業利益3,051百万円(前期比9.0%減)、経常利益3,207百万円(前期比5.0%減)、四半期純利益2,048百万円(前期比0.8%増)となりました。

セグメントごとの業績は次のとおりです。

#### 冷蔵倉庫事業

第五次中期経営計画の主要戦略である「保管・物流拠点化」、「全国ネットワーク化」の推進に注力し、新設した4つの物流センターの減価償却費や立ち上げ時の経費等が大幅増加する中、ほぼ当期初の計画通りに推移しました。

貨物の取扱状況は、入庫取扱量は約29千トンの増加(前期比3.3%増)、出庫取扱量は約13千トンの増加(前期比1.5%増)、平均保管在庫量は約164千トンの増加(前期比7.3%増)となりました。特に、畜産品の入庫が好調で保管在庫量の押し上げ要因となりました。また、タイ国の連結子会社タイヨコレイ(株)においては、前期新設したワンノイ物流センター2号棟がフル稼働状態に達し、同社の他の物流センターも高水準の在庫を維持して順調に推移しています。

以上の結果、冷蔵倉庫事業の業績は売上高17,974百万円(前期比8.5%増)、営業利益3,743百万円(前期比4.5%減)となりました。

#### 食品販売事業

当セグメントは、当期初から高値推移していた食品相場が軟化する中に急激な円安が重なり、大変厳しい事業環境となりました。しかしながら、不採算在庫の圧縮を徹底し、戦略的商材については積極的な販売を展開したことにより、当第2四半期連結累計期間までの減益基調から増益に転じました。

水産品は、メリハリをつけた販売戦略の実施により増収増益となりました。品目別では、ホタテ・カニ・サバ等は取扱量増加と輸出促進策が奏功して大幅な増収増益、ウナギは適正在庫を確保し着実な販路拡大によって減収ながらも増益、エビ・輸入鮭鱒類は不安定相場が続く取扱量を抑制して減収減益となりました。畜産品は、一般的に市場の高値基調が続く、利益率が悪化したことにより増収減益となりました。品目別では、ポークおよびチキンは不採算商材を抑制するも国内市場の供給過多により増収減益、ビーフは高値推移が続く需要減退のため減収減益となりました。農産品は、天候不順の影響を受け取扱量が減少したため減収減益となりました。

以上の結果、食品販売事業の業績は売上高96,553百万円(前期比10.5%増)、営業利益785百万円(前期比17.8%減)となりました。

#### (2)資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ8,418百万円増加し、122,628百万円となりました。これは主に商品が3,509百万円、有形固定資産が1,929百万円、投資有価証券が1,818百万円増加したこと等によるものです。

負債総額は、前連結会計年度末と比べ5,404百万円増加し、59,980百万円となりました。これは主に借入金が7,763百万円増加したことや、支払手形及び買掛金が728百万円減少したこと等によるものです。

また、純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ3,013百万円増加し、62,648百万円となりました。

### (3) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」）は、前連結会計年度末に比べ125百万円減少の4,305百万円となりました。当第3四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローの状況と主な内容は次のとおりです。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、674百万円の資金の増加（前年同四半期は3,632百万円の資金の減少）となり、その主な内容は税金等調整前四半期純利益3,207百万円、減価償却費3,289百万円による資金増加と、たな卸資産の増加額3,422百万円、仕入債務の減少額728百万円及び法人税等の支払額1,434百万円などの資金減少によるものです。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、6,926百万円の資金の減少（前年同四半期は6,632百万円の資金の減少）となり、その主な内容は有形固定資産の取得による支出6,262百万円などによるものです。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、5,979百万円の資金の増加（前年同四半期は8,952百万円の資金の増加）となり、その主な内容は金融機関からの借入の純増額7,113百万円による資金の増加と、配当金の支払額1,038百万円による資金の減少によるものです。

### (4) 事業上及び財政上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

### (5) 研究開発活動

該当事項はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	160,000,000
計	160,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在 発行数(株) (平成27年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成27年8月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	52,450,969	52,450,969	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	52,450,969	52,450,969	-	-

(注)「提出日現在発行数」欄には、平成27年8月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額(百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成27年4月1日	-	52,450,969	-	11,065	-	11,109
~	-					
平成27年6月30日	-	52,450,969	-	11,065	-	11,109

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成27年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成27年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 331,900	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 52,071,200	520,712	-
単元未満株式	普通株式 47,869	-	一単元(100株) 未満の株式
発行済株式総数	52,450,969	-	-
総株主の議決権	-	520,712	-

- (注) 1. 完全議決権株式(その他)における普通株式には、役員報酬BIP信託が所有する当社株式373,100株(議決権個数3,731個)が含まれております。  
 2. 単元未満株式数における普通株式には、当社所有の自己株式67株含まれております。

【自己株式等】

平成27年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
横浜冷凍株式会社	横浜市神奈川区守屋町一丁目1番地7	331,900	-	331,900	0.63
計	-	331,900	-	331,900	0.63

(注) 上記のほか、「役員報酬BIP信託」導入に伴い設定された役員報酬BIP信託が所有する当社株式373,100株を四半期貸借対照表上、自己株式として処理しております。

2 【役員の状況】

当該事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第3項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成27年4月1日から平成27年6月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成26年10月1日から平成27年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。



## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,993	4,971
受取手形及び売掛金	19,646	19,797
商品	17,405	20,914
繰延税金資産	550	338
その他	1,001	2,417
貸倒引当金	19	20
流動資産合計	43,577	48,418
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	32,482	33,901
機械装置及び運搬具(純額)	6,810	6,840
土地	19,176	19,377
リース資産(純額)	281	300
建設仮勘定	2,236	2,413
その他(純額)	711	795
有形固定資産合計	61,700	63,630
無形固定資産		
のれん	600	512
その他	1,721	1,744
無形固定資産合計	2,321	2,257
投資その他の資産		
投資有価証券	5,513	7,331
長期貸付金	110	43
その他	1,096	1,054
貸倒引当金	109	106
投資その他の資産合計	6,610	8,322
固定資産合計	70,632	74,209
資産合計	114,210	122,628

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,315	6,586
短期借入金	12,289	18,554
1年内返済予定の長期借入金	3,029	3,309
リース債務	95	106
未払法人税等	797	288
賞与引当金	651	134
役員賞与引当金	30	22
その他	5,439	4,508
流動負債合計	29,646	33,511
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	7,000	7,000
長期借入金	15,956	17,174
リース債務	170	162
繰延税金負債	436	700
役員退職慰労引当金	382	-
退職給付に係る負債	804	861
資産除去債務	105	105
その他	73	464
固定負債合計	24,928	26,469
負債合計	54,575	59,980
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	11,065	11,065
資本剰余金	11,109	11,132
利益剰余金	36,145	37,096
自己株式	522	545
株主資本合計	57,799	58,749
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,087	2,547
繰延ヘッジ損益	46	11
為替換算調整勘定	63	380
退職給付に係る調整累計額	91	68
その他の包括利益累計額合計	978	2,870
少数株主持分	857	1,028
純資産合計	59,635	62,648
負債純資産合計	114,210	122,628

( 2 ) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

( 単位 : 百万円 )

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年10月1日 至 平成26年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年10月1日 至 平成27年6月30日)
売上高	103,936	114,552
売上原価	95,045	105,762
売上総利益	8,891	8,789
販売費及び一般管理費	5,539	5,738
営業利益	3,351	3,051
営業外収益		
受取利息	10	40
受取配当金	92	99
助成金収入	46	31
保険配当金	28	31
固定資産売却益	2	0
その他	121	257
営業外収益合計	302	460
営業外費用		
支払利息	203	274
固定資産除売却損	46	11
その他	26	17
営業外費用合計	277	303
経常利益	3,377	3,207
税金等調整前四半期純利益	3,377	3,207
法人税、住民税及び事業税	1,249	946
法人税等調整額	51	183
法人税等合計	1,300	1,130
少数株主損益調整前四半期純利益	2,076	2,077
少数株主利益	43	28
四半期純利益	2,033	2,048

【四半期連結包括利益計算書】  
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成26年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年10月1日 至平成27年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	2,076	2,077
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	120	1,460
繰延ヘッジ損益	19	34
為替換算調整勘定	20	593
退職給付に係る調整額	-	22
その他の包括利益合計	121	2,041
四半期包括利益	2,197	4,118
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,146	3,940
少数株主に係る四半期包括利益	50	178

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成26年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年10月1日 至平成27年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	3,377	3,207
減価償却費	2,759	3,289
のれん償却額	114	87
賞与引当金の増減額(は減少)	459	516
役員賞与引当金の増減額(は減少)	7	7
退職給付引当金の増減額(は減少)	15	-
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	33	390
貸倒引当金の増減額(は減少)	85	2
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	-	23
受取利息及び受取配当金	103	139
支払利息及び社債利息	203	274
売上債権の増減額(は増加)	2,740	113
たな卸資産の増減額(は増加)	3,951	3,422
仕入債務の増減額(は減少)	440	728
未払費用の増減額(は減少)	443	864
その他	689	136
小計	1,361	2,242
利息及び配当金の受取額	101	129
利息の支払額	192	263
法人税等の支払額	2,180	1,434
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,632	674
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	6,475	6,262
有形固定資産の売却による収入	18	1
投資有価証券の取得による支出	27	39
貸付けによる支出	66	860
貸付金の回収による収入	77	286
その他	158	51
投資活動によるキャッシュ・フロー	6,632	6,926
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(は減少)	4,854	6,100
長期借入れによる収入	7,082	3,336
長期借入金の返済による支出	1,879	2,322
自己株式の処分による収入	-	299
自己株式の取得による支出	0	300
配当金の支払額	1,034	1,038
その他	70	94
財務活動によるキャッシュ・フロー	8,952	5,979
現金及び現金同等物に係る換算差額	5	145
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,317	125
現金及び現金同等物の期首残高	6,159	4,431
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(は減少)	78	-
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,492	1,430

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(1) 連結の範囲の重要な変更

該当事項はありません。

(2) 持分法適用の範囲の重要な変更

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成27年3月26日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更するとともに、割引率の決定方法を平均残存勤務期間に基づく割引率を使用する方法から退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第3四半期連結累計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の期首の退職給付に係る負債が77百万円増加し、利益剰余金が49百万円減少しております。また、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)  
該当事項はありません。

(追加情報)

(役員退職慰労金制度の廃止)

当社の役員退職慰労引当金については、従来、役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しておりましたが、平成26年12月19日開催の定時株主総会終結の時をもって役員退職慰労金制度を廃止しております。同制度廃止に伴い、在任期間に応じた役員退職慰労金の打ち切り支給を同株主総会で決議し、役員退職慰労金残高を固定負債の「その他」に計上しております。

(役員に信託を通じて自社の株式を交付する取引)

当社は、平成26年12月19日の定時株主総会決議により、当社の取締役に対するインセンティブ付与を目的として、「役員報酬B I P信託」を導入いたしました。

役員報酬B I P信託は、予め定める株式交付規程に基づき取締役に交付すると見込まれる数の当社株式を当社から一括取得し、役位及び在任期間に応じて取締役に当社株式を交付いたします。取締役が株式の交付を受けるのは、原則として取締役退任時となります。

信託に関する会計処理については、「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第30号 平成27年3月26日)に準じて、総額法を適用しております。これにより、信託として保有する当社株式を、信託における帳簿価額で株主資本の「自己株式」に計上しております。

当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、当第3四半期連結会計期間末において、299百万円、373,100株であります。

(四半期連結貸借対照表関係)  
 該当事項はありません。

(四半期連結損益計算書関係)  
 該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1. 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年10月1日 至 平成26年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年10月1日 至 平成27年6月30日)
現金及び預金勘定	4,921百万円	4,971百万円
預金期間が3ヶ月を超える定期預金	-	666
現金及び現金同等物	4,921	4,305

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成25年10月1日 至 平成26年6月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年12月20日 定時株主総会	普通株式	517	10.0	平成25年9月30日	平成25年12月24日	利益剰余金
平成26年5月14日 取締役会	普通株式	517	10.0	平成26年3月31日	平成26年6月16日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自 平成26年10月1日 至 平成27年6月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年12月19日 定時株主総会	普通株式	517	10.0	平成26年9月30日	平成26年12月22日	利益剰余金
平成27年5月13日 取締役会	普通株式	521	10.0	平成27年3月31日	平成27年6月15日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、役員報酬B I P信託口が保有する当社株式に対する配当金3百万円が含まれており  
 ます。



(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成25年10月1日至平成26年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	冷蔵倉庫事業	食品販売事業	その他	計		
売上高						
外部顧客への売上高	16,562	87,350	24	103,936	-	103,936
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,437	-	33	1,470	1,470	-
計	17,999	87,350	57	105,407	1,470	103,936
セグメント利益	3,919	955	25	4,900	1,548	3,351

- (注) 1.セグメント利益の調整額 1,548百万円は、各報告セグメントに配賦していない全社費用であります。  
 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。  
 2.セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自平成26年10月1日至平成27年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	冷蔵倉庫事業	食品販売事業	その他	計		
売上高						
外部顧客への売上高	17,974	96,553	24	114,552	-	114,552
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,471	-	33	1,505	1,505	-
計	19,446	96,553	57	116,057	1,505	114,552
セグメント利益	3,743	785	28	4,556	1,505	3,051

- (注) 1.セグメント利益の調整額 1,505百万円は、各報告セグメントに配賦していない全社費用であります。  
 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。  
 2.セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成26年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年10月1日 至平成27年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	39円29銭	39円59銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	2,033	2,048
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	2,033	2,048
普通株式の期中平均株式数(千株)	51,746	51,745
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	34円40銭	34円66銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(百万円)	-	-
普通株式増加数(千株)	7,368	7,368
(うち転換社債型新株予約権付社債 (千株))	(7,368)	(7,368)

(注)「役員報酬BIP信託口」が保有する当社株式を、「1株当たり四半期純利益金額」の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております(当第3四半期連結累計期間149,240株)。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2【その他】

第68期(平成26年10月1日より平成27年9月30日まで)中間配当については、平成27年5月13日開催の取締役会において当社定款第41条の規定に基づき、平成27年3月31日現在の最終の株主名簿に記載又は記録された株主に対し次のとおり中間配当を行うことを決議しております。

中間配当金の総額 521百万円

1株当たり中間配当金 10円00銭

支払請求権の効力発生  
 日及び支払開始日 平成27年6月15日

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年 8月10日

横浜冷凍株式会社  
取締役会 御中

### 有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士

大中 康行

印

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士

藤井 淳一

印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている横浜冷凍株式会社の平成26年10月1日から平成27年9月30日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成27年4月1日から平成27年6月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成26年10月1日から平成27年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、横浜冷凍株式会社及び連結子会社の平成27年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。